
素庵日記

春野一人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素庵日記

【Nコード】

N5504X

【作者名】

春野一人

【あらすじ】

春野一人（素庵）の日記 つれづれなるままに、日々の良からぬ事を書きしるせり。一種のゴミ箱、パンドラの箱。悪臭あり、要注意！

11年10月13日

2011年10月13日 木曜日 それでも、暑い日がたまにある。昨晚、日本テレビ、夕方のニュース番組「エブリー」に、素庵め登場。信州妻恋の高原のキャベツ畑で、わが恐妻に愛を叫ぶという、おぞましい画面が繰り広げられました。素庵、ちょっと太めだが、わが愚妻の友、曰く「かっこいいじゃん」に愚かな素庵、たちまち気を良くする。しかし醜態が展開するのではという思いで緊張したのであるうか、疲れ果て、お子様就寝時間の午後八時に寝てしまった・・・。

さて、カルカヤの歌を書き終えたあと素庵こと春野一人は毎日酒に溺れ、女を追いかけ回し・・・と、言うことでもなく、次作は歴史小説の予定なので、あらずじ、登場人物、時代のイメージを、下手な字でノートに書き散らしているところなのであります。必ずや近々に、再登場しますので、乞うご期待！

先日は、映画、「猿の惑星・創世記」を見ました。前作「猿の惑星」「続猿の惑星」は名作でしたが、今度の新作も見応えのあるものでしたな。

11年10月14日（金） 晴

10月14日 厚生労働省は10月11日の社会保障審議会（厚生相の諮問機関）の年金部会で三つの案を提示した。厚生省は年内に改革案を取りまとめる予定だという。三つの案と言うのは、？厚生年金の支給開始年齢を3年に1歳ずつ引き上げるというスケジュールを「2年に1歳ずつ」に前倒しして、65歳に引き上げる。？厚生年金を65歳まで引き上げた後、基礎年金も支給開始年齢を3年に1度引き上げて、最終的には68歳支給開始とする。？2年に1歳ずつまえ引き上げを早め、さらに2年に1歳ずつ引き上げて、基礎部分も含め68歳支給開始とする。

これに先立つ、六月の民主党の社会保障に関する論議では70歳までの引き上げに言及した論もあったと言っ！

こうした正に逃げ水といわれる、詐欺まがいのことが、いとも易々行われる事に素庵は怒りを感じる。

こんな事では、年金に対する国民の信頼は低下する一方ではなからうか。財源が足りないと言っことで、このような論が、慎重な国民的議論もなく発表されて良いものであるうか。やはり民主党もだめだ。

10月15日（土） 小雨

久々の雨模様。震災による原発の駆動停止により、妻の仕事が日産関係のため、土・日出勤になっていた。それで私の土・日の休日とあわず、夫婦すれ違い休日となってしまうていた。十月に入り、やっとその魔法も解けて、仲良く（！）休日が一緒になった。

二人連れだつての遠出も三ヶ月なかつたので、今日は日帰り温泉行である。常磐道・谷和原ICより車で10分の「きぬの湯」が目指す場所である。入浴料は土・日1200円（回数券利用で千円）。源泉かけ流しので塩化物質泉・36・6度・毎分229L・、黄色を帯びた透明な泉質は東北に多い、非常に和む香りを持っていて良いグレードである。東京から車で30分で、この良質な温泉に出会える事は貴重と言える。施設も広々と綺麗で、妻はボデイケア・足マッサージ込み一時間6000円で

強固な疲れが抜けたと満足のようす。えびす生ビールは香り高く・こだわりの料理も旨く・ボリューム・お値段は納得のもの。又、嬉しい充実した産地直売コーナーもある。周辺は筑波エクスプレスによつてできた新造の住宅が散在して、若干郊外の住宅地という感じだが、広々とした感じは消えていない。駐車場は230台と余裕があるが、電車で行くなら常磐線&筑波エクスプレス守谷駅から要予約で送迎バスがあるそうだ。電話は0297-20-3751である。

10月18日(火)

10月18日(火)日曜日、例によって「ちい散歩」をする予定だったが、なんと30度近い、真夏日。なまくら素庵は、さつさと戦線を撤退し、シネコンに逃げ込んだ。シネコンで目についた「ツレがうつになりまして」を見ることにした。この作品は細川貂々《ほそかわてんてん》の原作で、これは鬱病になった夫、望月昭さんとの闘病記をイラスト付で描いて2006年にベストセラーとなった幻冬舎刊「ツレがうつになりまして」の映画化だという。監督は人情劇に定評がある佐々部清。暗い話なのかと思ったが、タイトルのおかしさを裏切らず、暖かい映画に仕上がっていた。この映画には忘れられない良い言葉がたくさん転がっていて春野一人のペンネームで作品を書いている素庵に切り込んでくる言葉があった。売れない漫画家である、ツレの妻は、職場の親しい上司にこう言われる「あなたは、あんたが書いている作品が本当に面白いと書いて書いているかね? そのよう漫画が人を引きつけると思いませんか?」そこでツレの妻は書くべき作品のヒントを得るのである。素庵も突然春野になって、そうだそうだとこのシーンにうなずいてしまったのである。結論、この映画は過酷な企業社会の荒野に咲く、癒しの美しい花である。

10月19日(水)

仕事の後、午後六時過ぎ、市立図書館に日本書紀と白村江を扱った2冊の本を返した。読むのに時間がかかったので、返却期限を過ぎてしまった。さて、今度は「日本書紀は独立宣言書だった―明かされた建国の謎―」山科誠著 昭和20年 金沢市生まれ 慶大経済学部卒 昭和42年小学館販売を経て昭和44年バンダイ入社 昭和55年同社代表取締役就任。角川書店平成八年刊。二冊目は、吉川弘館・・・いつも資料としてお世話になりますなあ、現代語訳吾妻鏡は良かった！・・・ 歴史ライブラリー229の「古事記のひみつ・歴史書の成立」平成十九年刊 三浦佑之すけゆき(昭和21年三重県生まれ。昭和50年千葉大学院人文社会科学科教授。著書に口語訳古事記・万葉びとの「家族」誌・等。三冊目は「日本書紀のすべて」 新人物往来社平成3年刊 武光誠著(本に著者略歴なし。素庵調べ・1950年生まれ・日本史学者、明治学院大学教授。山口県生まれ。東大大学院国史学専攻、1980年明治学院大学に勤務。2008年東大博士課程を修了「古代太政官制の研究」で文学博士、明学大教養教育センター教授となった。およそ200冊の著書があり、研究者として知られている)

まさに、さまざまな人が古代史の解明に取り組んでいるのだなあと思う。素庵も虎の威を借る狐として、のこのこ行って行くことにしよう。

そのほか、日本書紀の研究書である「釈日本紀」「日本書紀私記」を予約して帰宅した。夕飯は、ブリの煮付け、なめこ味噌汁、レタスのサラダ、発泡酒350ml1缶である。

10月20日(木)

東京は20日から突然冷え込んだ。山の神に、ブレザーを着て行けと言われていたが、素庵、南方系なのに(本当にそうであるうか・母の父は富山の百姓の末っ子であったから、神田のテーラーに丁稚として上京した人で、私の性格、体質は、その祖父に似ているらしい。これでは、むしろ出雲に多い、新羅系統の血を受けているかもしれない・・・だから北方系なのかも知れない。父方は鎌倉時代から川崎の多摩川に面した幕府の重要な城があったところに居を構えた一族のようで、鎌倉幕府を盛り立てた稲毛氏臣下の関東武士団の一派であったと思われる。しかもチジレ毛で鼻がでかいアロハ民族のようであるから、黒潮に縁のある血筋ではなからうか。父、母の母についてはともに不詳である(寒さには強い。シャツの上に、ポロを着ただけで一日すごした。仕事の他は、歴史書・歴史書に埋もれている。新しい話のためのあらすじもまだ、まとまっていない。日本書紀と古事記の並立というミステリーを追いかけている段階であるからだ。この謎が解けないと話が始まらないのである。(書く小説については謎のままに残しておこう)

10月21日(金) 雨

今日は朝から雨である。図書館から借りてきた歴史本三冊にやつと目を通し終えた。三冊中、取るべき著作は「古事記のひみつ」^{みつひ・すけみき}三浦佑之著 吉川弘文館刊であった。真摯に古事記と日本書紀を比べ、独断に入り込まず、よくあるトンデモ本にならず、まさに「古事記」を分析した優れた著作と思えた。「日本書紀は独立宣言書だった」 山科誠著は、すごい独断で、推論の進め方には優れたところが見えるが、なにしろ独断が多すぎて、ほとんどトンデモ本化している。参考にはなりえないと思えた。「日本書紀のすべて」 武光誠編 新人物往来社刊は、いわば広く浅くの本、十人の人達による、日本史入門書といったところだ。竹光氏の担当はわずか20ページあまり、「日本書紀と古事記も同時期に並立しているが、古事記も朝廷に必要な書であった」と簡単に片付けられてしまっている。200冊に及ぶ著作がある学会では著名な先生であるらしいが、首を傾げてしまう研究態度ではなからうか。

さて「古事記のひみつ」により、素庵の愚鈍な頭も整理されて、少し前に進むことができた。三冊の本の前に借りてきた本の名を記さなかったが、その一冊は「日本書紀の謎を解く・述作者は誰か」^{もり・ひろみち}森博達(1949年兵庫県生まれ、大阪外国語大学中国学科卒。名古屋大学大学院博士課程(中国文学専攻)中退。愛知大学専任講師、同志社大学助教授、大阪外国語大学助教授を経て、1999年に京都産業大学教授)は日本書紀に用いられている言葉によって、著述者を推理する方法を採っている。それによって、書記の各巻が中国人の手によるものか、日本人によるものかを、見事に分析している。小耳にはさんだ話によると、この著は名作で知られているということである。

このようにして、謎は徐々に明らかにされてきているが、道は未

だ遙かに遠い。素庵が日本古代に強く惹かれるのは、謎が多いからである。さらに日本書紀が謎かけ問答をしかけてくるから余計面白いのである。・・・今は古い小説になってしまったが「成吉思汗じんぎすかんの秘密」たかぎあきみつ 高木彬光著 昭和35年 光文社刊 は、歴史マニアには心躍る名作であった。なにしろ源義経が元初代皇帝ジンギスカンであると言うことを、入院中で閑な東大法医学助教授が論証するという話であり、その論証が、若き素庵にはたまらなく面白かった。この土日はこれを再読したいと思っている。

高木彬光 1920年青森市生まれ1955年没の推理小説作家。四代続く医者の家系。東大進学に失敗、京都帝大工学部冶金学科卒業。一高在学中、家は破産して一家離散、親族の援助で学業を続けた。京都大学卒業後、中島飛行機に就職したが太平洋戦争終結で失職。1947年骨相占師の勧めにより小説家をめざす。できあがった「刺青殺人事件」が江戸川乱歩に認められ、1948年出版。代表作に「能面殺人事件」（1950年、第三回探偵作家クラブ賞）「わが一高時代の犯罪」「人形は何故殺される」「白昼の死角」「破戒裁判」

氏の歴史ミステリー「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」は、いずれも入院中の教授が謎にいとむという小説である。こうした推理小説の書き方は、ジョセフィン・テイの「時の娘」（1951年）が原型で、病院のベッドで動けない探偵が限られた情報で推理する話とあるので「ベッド・デイテイテクティブ」とよばれている。

氏はかなりユニークな人で、易、占いを信じていて、手相の本として「手相占い」昭和56年角川文庫がある。また大学で学んだ冶金の知識を生かして、秋田で鉱山の発掘に熱中したという（鉱山士の事を山師とも言うね！笑い）。この手相の本は、素庵も愛読したが、今日の日まで氏の著作と知らなかった！似た名前であるなどは思っていたのだが・・・（苦笑）。

10月22日(土) 雨のち晴

今日は、「ちい散歩」いりやかいわい入谷界限に従って散歩すべく昼前にJR上野駅に降り立った。しかし外に出てみると、降りしきる雨。意気地のない素庵夫妻であるから、早速、計画撤回。上野駅で昼食ということになったが、あいにくほどよい食事どころ見つけれず、東京駅に行こうと言うことになった。そして東京駅は構内北側の「キツチンストリート」(食事どころが集まっている)の明石たこ焼き店「にしむら日和」ひよりに入り込んだ。お通し200円×2オム焼きそば1000円×1・明太チーズ餅、お好み焼1000円×1・明石たこ焼き950円×1・麒麟瓶ビール・梅酒ソーダ割り・明石鯛(清酒)1合弱×1・漬け物、ぬか床30年もの550円×1を食べる。家に帰ってネットでの店の評判はかんばしいものではなかったが、お新香は絶品!日本酒明石鯛(たぶん純米酒、今度行ったら聞いてみたい)が薄く黄色みかかった、濃厚な江戸時代的な良い酒、焼きそば、お好み焼も非常に美味しかった。二人はカウンターの前で勝手なオダをあげたが、焼手の60代と思われる、下町風おばさんも、おじさんも、ほどよい客あしらいで心地よく酔うことができたのであった。鯨焼とかキノコ五種焼とか煮こごりなど旨そうなおつまみもある。銀座店もあるというので今度行ってみようと思う。さて、読んでいる「成吉思汗の秘密」大変面白い。日本国史大系8(日本書紀私記・釈日本紀・日本逸史)B5サイズで厚さ10センチで全て漢字!を借りてきた。鋭意解読しなくては!(汗)

10月23日(日) 暑

朝方三時に目が覚めて、七時までに「成吉思汗の秘密」を読み切った。義経が成吉思汗になったという大胆な設定ながら、考証を見事に固めている。まさに、こうした質の高い考証は近頃のトンデモ本の作家の遠く及ばないところである。主人公の神津がマルコポーロの「東方見聞録」の書中に気になる記述があることを以下のよう

に紹介している。
元の皇帝フビライが成吉思汗から聞いた話としてマルコポーロに伝えた。

成吉思汗が若い頃、ある合戦に敗北して、ただ一人フクロウが住む古い大木の空洞に逃れた。そこへ敵兵が追撃してきて、洞窟に入ろうとした兵を、成吉思汗に心を寄せる敵の重臣が、「ここには人間はおらんフクロウがおるだけだ」と押し留めた。それで彼は九死に一生をえて助かった。

この話は、平家追討に立ち上がった源頼朝の小田原、石橋山での苦戦の経験とそっくりである(鎌倉正史・吾妻鏡に書かれている)それが「東方見聞録」に載っていることは実に不思議としか言いようがない。(素庵は石橋山古戦場に行ったことがある!伊豆の海から急に立ち上がったミカン山といった所である)このような驚くべき史実を「成吉思汗の秘密」は数多く捜して題材に持ってくるのは作者の努力のたまものなのである。これはただの、トンデモ本とは違う、歴史研究本とさえ言える優れた本なのである。・・・「東方見聞録」を早速手に入れて、この部分たしかめてみたい。

十時過ぎ、家を出て、「ちい散歩」本郷界隈を歩いてみる。何で

も夏日とか、暑い。東大生協の食堂で、昼食。素庵は中華丼400円、恐妻は五目寿司と天ぷら・鯖焼さわらき物のセット、550円。味、ポリウムとも納得の品だった。・・・しかし東大の施設は実にボロである、日本国の指折りの大学がこのような有様であるのは実に嘆かわしい。一千兆円の借金が、このような所に影を投じているだ！・・・

それはさておき、街歩きは身体を鍛え、かつ余分に楽しめる、ちい散歩は良い。このあたり傾いた古民家、味のある、木造の下宿屋などあり、なかなか良い。また和菓子老舗、古本屋なども多く楽しい。

10月26日(水) 秋寒 晴

先晩は、素庵の関係する韓国居酒屋「O」の開店祝いで、午後6時ころより飲み始め、午前様となり我が家に帰還。そのため一日二日酔いに悩まされた。ただボウとして、本も読む気力もパソコンにさわる意欲もうせてしまって、もう酒はやめようと固く決意した。しかし今日になると、酒はほどほどにすべきだと思っっていることが変わってしまった。まさに素庵のだらしなさがもるに出てしまっている。こんな時は「相田みつお」の言葉ではないが「人間だもの」と、うそぶいていよう。

さて、図書館から借りてきた資料「日本書紀私記」「釈日本紀」「日本逸史」が、今手元にある。吉川弘文館発行、平成11年、新訂増補「国史大系」に前記三書が一緒に記載されている。素庵の調べによると、これらの書について、現代語訳といったような解釈本はないようだ。したがって全文、漢字の原書だけが、この無学な素庵の前に所在なげに転がっている有様である。吉川弘文館に恥ずかし気もなく、電話して、「もっと易しい本はないか」などと聞いてみようと思っっている。吾妻鏡などは良い現代語訳を出してくれている出版社だから、庶民の味方であるはずだが・・・。

さて、この本の他に、先日のニュース・エブリイの出場のお礼に頂いた、日テレマーク入り図書カード500円4枚で新刊小説「下町ロケット」池井戸順著とアマゾンで買った、例の「ベッド探偵」元祖・ジョセフィン・テイの「時の娘」が目の前に転がっている。

下町ロケットは、その題名からすると、下町の工場の親父が出てきて、おんぼろい人工衛星でも飛ばす話かと思っっていたが、イメージとおもいきり違う話である。しかしながら、非常にドラマチックな内容で面白い。素庵は小説のストーリーを話す奴が大嫌いで、今はなき淀川長治のテレビコメントなどは声を消して見ていた者で

あるから、ここでは、ストーリーを書くことは、控える。

10月27日(木)

「日本書紀私記」「釈日本紀」の注釈本・現代語訳は存在しないというのが、目下の素庵の結論である。厚かましいことに吉川弘文館に電話して聞いた話でもある。したがって、目の前には漢文の壁がそそり立っている。(汗)。魏志、後漢書なども文庫本になっているのは、倭国に関連した記事を取り出した、いわゆる倭人伝と読んでいるダイジェスト版のみに限られている。言うまでもないことだが、古代の日本をめぐる状況は、倭人伝だけでは決して理解はできない。

すでに、出版社の未来は陰り始めているが、ここであえて言わして貰えば、従来の出版界がひどく安易な土俵で勝負してきたということである。(ネット上にも、これらの現代語訳は存在しないように思える。どなたか取り組む人はいないだろうか)

こうした状況が、現在の歴史トンドेम本の跋扈はつごを許していると言えよう。・・・さて、こうぶつぶつ言っている間にも、図書館から「東方見聞録」二冊用意できたと、メールが入った。土日は、那須にモミジ狩りに(風雅なことばだねえ)出かけるから熟読はむりだろうが、楽しみである。「時の娘」「下町ロケット」は、ただ今読書中。素庵は熱烈ながらいい加減なSF好きであるから、いずれ「リングワールド」「宇宙のランデブー」「夏の扉」などなどについてご託を並べるつもり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5504x/>

素庵日記

2011年10月28日08時06分発行